

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 城南 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

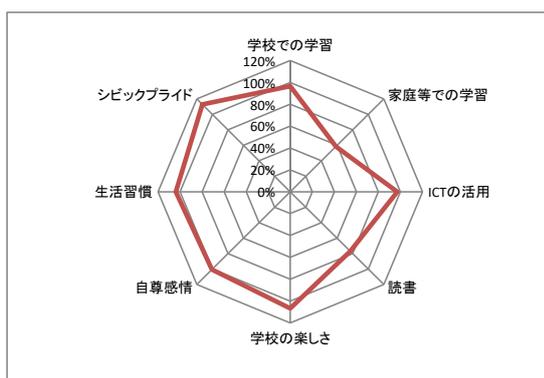
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っている。 ・文章の内容や状況を把握することができても自分の考えや状況を説明することを苦手としている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる	
	努力が必要な問題	・観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる ・文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる	
数学	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っている。 ・計算や言葉、用語の意味については身につけているが理由を説明することや証明することを苦手としている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	
	努力が必要な問題	・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	
英語	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っている。 ・「聞くこと」では内容を捉えられるが「書くこと」が不得意のようである。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる ・日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	
	努力が必要な問題	・情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる ・未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「朝食を毎日食べている」は全国平均と僅差であり、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」は全国平均を上回っている。 ・「学校での楽しさ」は全国平均を上回っており、これからも生徒間の充実したコミュニケーションを良好に保つために、生徒と教師間の良好な関係を維持していきたいと考える。 ・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」3割、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」3割と1時間以上の回答をした生徒が少ない状況にある。そのため、タブレットを活用した家庭学習の充実を図っていきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・「めあて」「まとめ」の提示を授業で徹底し、わかりやすい授業への取り組みを強化する。
- ・タブレットのアプリなどを活用し、基礎学力の定着を図る。
- ・補充学習を充実するため、これからも考査前などに放課後学習会を開き、学習内容の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・保護者への協力を得ながら、生活習慣の改善・維持に取り組む。
- ・保健体育科や家庭科の教科の中などで、生活習慣の改善に向けた授業のなかで、自ら実践できる生徒の育成を図る。